

タイトル 地球の変形を観測した日本初の「傾斜計」 学術遺産に

掲載日 2009年11月18日(水)

掲載紙誌名 京都新聞

掲載面 第1面

## 100年前、引力での地球変形観測 傾斜計発見、学術遺産に

京都大上賀茂地学観測所で見つかった傾斜計



100年前、太陽と月の引力で地球が変形する「地球潮汐」を日本で初めて観測した傾斜計が、京都市北区の京都大上賀茂試験地に隣接する上賀茂地学観測所で見つかった。日本の地球物理学研究の基礎を築いた学術遺産として、左京区の京大総合博物館で保管し、公開を検討している。

### 京大博物館 公開を検討

三角形の台座に直径50センチの円筒を据えた構造で、内部には地面の傾きをとらえて動く棒など一部の部品が残っていた。京大防災研究所のジェームズ・シロウ・モリ教授らが7月、観測所内を整理中に見つけた。

調査した竹本修三・国際高等研究所フェロイ(京大名誉教授)によると、傾斜計は地球物理学で京大総長を務めた菊池大麓の命を受け、物理学者の長岡半太郎と地震学者の大森房吉が1890年代に留学先のドイツで購入したという。

1909年に菊池の

(松尾浩道)